



イーブイエー
ダイレクト年金 e-VA

新変額個人年金保険(無配当)
特別勘定グループ(GW)

月次運用実績レポート

2016年2月

特別勘定の名称	主な運用対象の投資信託	投資信託の運用会社
日本株インデックス型(GW)	インデックスファンド225VA (適格機関投資家向け)	日興アセットマネジメント株式会社
日本株アクティブ型(GW)	フィデリティ・日本成長株・ファンドVA3 (適格機関投資家専用)	フィデリティ投信株式会社
海外株式型(GW)	ステート・ストリート外国株式 インデックス・ファンドVA1(適格機関投資家専用)	ステート・ストリート・グローバル ・アドバイザーズ株式会社
新興成長国株式型(GW)	JPM・BRICS5・ファンド (適格機関投資家転売制限付)	JPモルガン・アセット・マネジメント 株式会社
海外債券型(GW)	ピムコ・海外債券ファンド (適格機関投資家専用)	ピムコジャパン リミテッド
日本債券型(GW)	MHAM物価連動国債ファンドVA (適格機関投資家専用)	みずほ投信投資顧問株式会社
海外リート型(GW)	ノムラ海外REIT インデックス ファンドVA(適格機関投資家専用)	野村アセットマネジメント株式会社
マネープール型(GW)	フィデリティ・マネー・プールVA (適格機関投資家専用)	フィデリティ投信株式会社

<引受保険会社>



アクサ生命保険株式会社

redefining / standards

〒108-8020 東京都港区白金1-17-3
TEL 0120-933-399
アクサ生命ホームページ <http://www.axa.co.jp/>

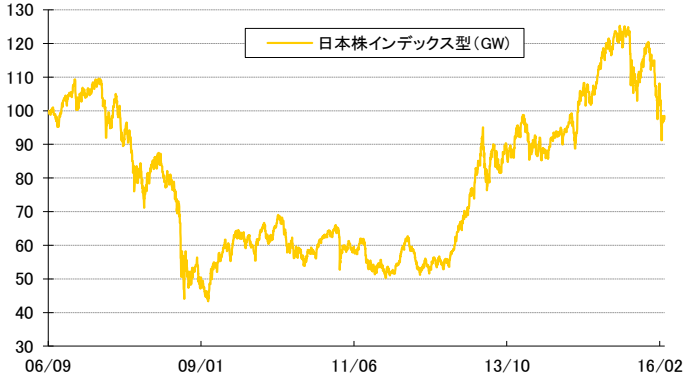
特別勘定名称

日本株インデックス型(GW)

運用方針

国内の株式を主な投資対象とする投資信託に主に投資することにより、日経平均株価に連動した投資成果をあげることを目指します。

ユニット・プライスの推移



ユニット・プライスの騰落率

	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	設定来
日本株インデックス型(GW)	▲8.13%	▲18.03%	▲14.23%	▲13.86%	▲2.51%

特別勘定資産内訳

	構成比(%)
現預金・その他	4.4%
投資信託	95.6%
合計	100.0%

※ユニット・プライスとは特別勘定資産の1ユニット(1口)に対する価格のことで、特別勘定の運用を開始した時点(06/09)を「100」として指数化したものです。

【参考】日本株インデックス型(GW)の主な投資対象である投資信託の運用状況を掲載

インデックスファンド225VA(適格機関投資家向け)

(運用会社:日興アセットマネジメント株式会社)

<基準価額の騰落率>

	3ヵ月	6ヵ月	1年	3年	設定来
インデックスファンド225VA	▲18.76%	▲14.58%	▲13.61%	12.94%	5.21%
日経平均株価(225種・東証)	▲18.84%	▲15.16%	▲14.74%	11.51%	4.07%
差異	0.09%	0.58%	1.13%	1.44%	1.14%

<純資産総額>

純資産総額	61.2億円
-------	--------

※収益率は、1年以上の場合、年率ベースで、1年未満(3ヵ月間、6ヵ月間)は、年率換算していません。
 ※ファンド(分配金再投資)の収益率は、当ファンド決算時に分配金があった場合の分配金を再購入(再投資)し、算出しています。
 ※収益率・リスクともに月次の収益率より算出しています。設定日が月中の場合、設定日が属する月は含んでいません。

<株式組入上位10業種>

業種名	ファンドのウェイト
1 電気機器	16.24%
2 情報・通信業	11.77%
3 小売業	10.36%
4 医薬品	8.28%
5 化学	7.93%
6 輸送用機器	6.33%
7 食料品	5.86%
8 機械	4.65%
9 サービス業	3.49%
10 精密機器	3.46%

※ファンドのウェイトはマザーファンドの対純資産総額比です。

<株式組入上位10銘柄>

銘柄名	ファンドのウェイト
1 ファーストリテイリング	7.64%
2 KDDI	4.21%
3 ソフトバンクグループ	4.08%
4 ファナック	4.05%
5 京セラ	2.43%
6 アステラス製薬	1.98%
7 セコム	1.96%
8 テルモ	1.88%
9 ダイキン工業	1.85%
10 エーザイ	1.70%

(組入銘柄数 225銘柄)

※ファンドのウェイトはマザーファンドの対純資産総額比です。

<資産構成>

株式	99.66%
一部上場	99.66%
二部上場	0.00%
地方単独	0.00%
ジャスダック	0.00%
その他	0.00%
株式先物	0.34%
株式実質	100.00%
現金その他	0.34%

※当ファンドの実質の組入比率です。

<運用コメント>

2月の国内株式市場は、日経平均株価が前月末比マイナス8.51%と下落しました。

上旬は、原油価格の下落の継続や、世界経済の先行き不透明感、欧州の金融システム不安の高まり、米国における追加利上げ観測の後退を背景とした円高/アメリカドル安などから、国内株式市場は下落しました。中旬から下旬にかけては、主要な産油国による原油の増産凍結への動きを受けた原油価格の底打ち観測や、米国における市場予想を上回る経済指標の発表などが株価の下支えとなる一方、為替の円高/アメリカドル安傾向などが重しとなり、国内株式市場はもみ合いの展開となりました。

※当資料に記載されている事項は、現時点または過去の実績を示したものであり、将来の投資成果を保証するものではありません。
 ※その他、当資料に関する「ご留意いただきたい事項」を9/9ページに掲載していますので必ずご参照ください。

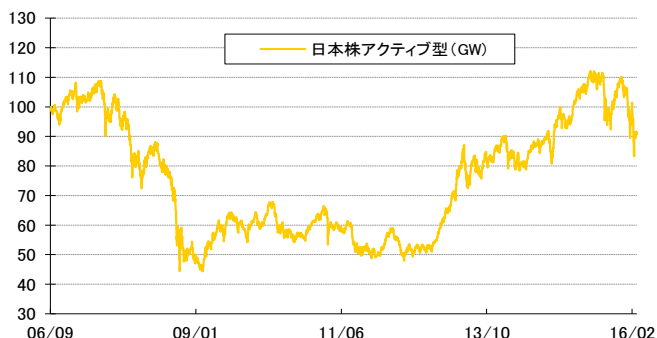
特別勘定名称

日本株アクティブ型(GW)

国内の株式を主な投資対象とする投資信託に主に投資することにより、東証株価指数を中長期的に上回る投資成果をあげることを目指します。

運用方針

ユニット・プライスの推移



※ユニット・プライスとは特別勘定資産の1ユニット(1口)に対する価格のことで、特別勘定の運用を開始した時点をも「100」として指数化したものです。

ユニット・プライスの騰落率

	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	設定来
日本株アクティブ型(GW)	▲8.15%	▲16.32%	▲11.16%	▲11.05%	▲9.30%

特別勘定資産内訳

	構成比(%)
現預金・その他	4.5%
投資信託	95.5%
合計	100.0%

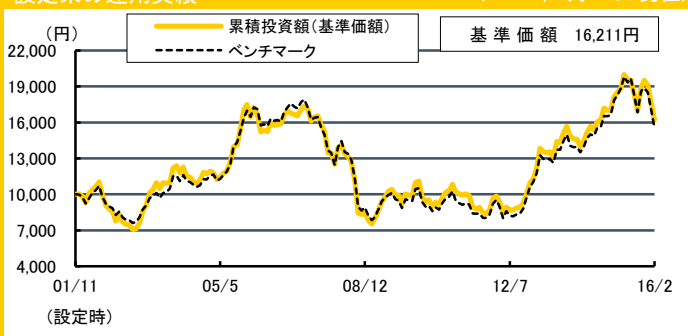
【参考】日本株アクティブ型(GW)の主な投資対象である投資信託の運用状況を掲載

フィデリティ・日本成長株・ファンドVA3(適格機関投資家専用)

(運用会社:フィデリティ投信株式会社)

- ①主として日本株を投資対象とします。
- ②個別企業分析により、成長企業を選定し、利益成長性等と比較して妥当と思われる株価水準で投資を行いません。

設定来の運用実績 (2016年2月29日現在)



※累積投資額は、ファンド設定時に10,000円でスタートしてからの収益分配金を再投資した実績評価額です。ただし、購入時手数料および収益分配金にかかる税金は考慮していません。ベンチマークはファンド設定日前日を10,000円として計算しています。※基準価額は運用管理費用控除後のものです。※当該実績は過去のものであり、将来の運用成果等を保証するものではありません。

<運用コメント>

当月の東京株式市場は、中国景気の失速懸念や原油安という従来からの株安要因に、米国景気の減速懸念や欧州の信用不安などが加わり、前月に続いて大きく値を崩しました。前月末からの反発も東の間、中国景気の失速懸念や原油安という従来からのリスクオフ要因に加え、経済指標の悪化で米国の景気減速が懸念され、円高ドル安が進んだことなどを背景に、日本株は月初早々に下落に転じました。欧州金融機関の信用不安が台頭したほか、日銀のマイナス金利政策の適用を控えて金利市場にも動揺が広がる中、株価は下げ幅を拡大しました。米連邦準備理事会(FRB)のイエレン議長の議会証言を受け、追加利上げ観測が後退すると、円が急騰し、12日には日経平均株価が一気に15,000円を割り込みました。その翌日には、ドイツ銀行が発行済み債券の買い取りを発表し、欧州の信用不安が後退したことで、日経平均株価が16,000円を回復するなど、月央までは値動きの荒い展開が続きました。月後半は、原油相場の上落一服に加え、欧州中央銀行(ECB)による追加金融緩和や、20カ国・地域(G20)財務相・中央銀行総裁会議で財政政策を含めた政策協調が打ち出されることへの期待などが支えとなり、市場は落ち着きを取り戻しましたが、日経平均株価は16,000円近辺での推移にとどまりました。

月間の騰落率は、TOPIX(配当金込)が▲9.34%、日経平均株価は▲8.51%でした。

※上記コメントは、資料作成時点におけるもので将来の市場環境等の変動等を保証するものではありません。

ポートフォリオの状況(マザーファンド・ベース)

(2016年1月29日現在)

<資産別組入状況>

株式	98.4%
新株予約権証券(ワント)	-
投資信託・投資証券	0.3%
現金・その他	1.3%

<市場別組入状況>

東証1部	94.9%
東証2部	1.3%
ジャスダック	1.7%
その他市場	0.9%

<組入上位5業種>

電気機器	15.6%
機械	12.3%
輸送用機器	7.2%
化学	6.8%
情報・通信業	6.3%

(対純資産総額比率)

* 各々のグラフ、表にある比率は、それぞれの項目を四捨五入して表示しています。

* ファンドは短期資金の運用の一環として、委託会社が設定した「フィデリティ・円キャッシュ・ファンド(適格機関投資家専用)」に投資する場合があります。これはあくまでも短期資金の運用であるため、組入上位10銘柄、市場別組入状況には含まず、資産としては「現金・その他」に分類いたしております。なお、未払金等の発生により、「現金・その他」の数値がマイナスになることがあります。

※当資料に記載されている事項は、現時点または過去の実績を示したものであり、将来の投資成果を保証するものではありません。

※その他、当資料に関する「ご留意いただきたい事項」を9/9ページに掲載していますので必ずご参照ください。

特別勘定名称

海外株式型(GW)

運用方針

日本を除く主要先進国企業の株式を主な投資対象とする投資信託に主に投資することにより、MSCI KOKUSAIインデックスに連動した投資成果をあげることを目指します。

ユニット・プライスの推移



ユニット・プライスの騰落率

	1か月	3か月	6か月	1年	設定来
海外株式型 (GW)	▲4.12%	▲14.50%	▲11.31%	▲15.82%	16.71%

特別勘定資産内訳

	構成比 (%)
現預金・その他	4.8%
投資信託	95.2%
合計	100.0%

※ユニット・プライスとは特別勘定資産の1ユニット(1口)に対する価格のことで、特別勘定の運用を開始した時点(100)として指数化したものです。

【参考】 海外株式型(GW)の主な投資対象である投資信託の運用状況を掲載

ステート・ストリート外国株式インデックス・ファンドVA1 (適格機関投資家専用)

(運用会社:ステート・ストリート・グローバル・アドバイザーズ株式会社)

<基準価額の騰落率>

	1か月	3か月	6か月	1年	設定来
ステート・ストリート 外国株式インデックス・ ファンドVA1	▲4.26%	▲15.04%	▲11.58%	▲15.78%	141.04%
MSCIコクサイ インデックス (円換算)	▲4.10%	▲14.64%	▲10.77%	▲14.45%	179.17%
差異	▲0.15%	▲0.41%	▲0.81%	▲1.33%	▲38.13%

<総資産総額>

純資産総額 5,030百万円

<組入銘柄数>

銘柄数 (マザーファンド) 1,335

<外国株式組入上位10銘柄>

順位	銘柄名	投資国名	業種名称	比率
1	APPLE INC	アメリカ	テクノロジー・ハードウェアおよび機器	1.9%
2	MICROSOFT CORP	アメリカ	ソフトウェア・サービス	1.3%
3	EXXON MOBIL CORP	アメリカ	エネルギー	1.2%
4	JOHNSON & JOHNSON	アメリカ	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	1.0%
5	GENERAL ELECTRIC CO	アメリカ	資本財	1.0%
6	FACEBOOK INC-A	アメリカ	ソフトウェア・サービス	0.8%
7	WELLS FARGO COMPANY	アメリカ	銀行	0.8%
8	AT & T INC	アメリカ	電気通信サービス	0.8%
9	NESTLE SA-REG	スイス	食品・飲料・タバコ	0.8%
10	AMAZON COM INC	アメリカ	小売	0.8%

※マザーファンド・ベース
※比率は対純資産で計算しています。

<運用コメント>

2月の外国株式市場は、世界的な景気減速懸念が広がる中、原油価格の低迷や欧州金融機関の信用リスクの高まりが嫌気され上旬は軟調に推移しましたが、その後は原油価格の上昇や景気刺激策への期待感が相場を支え上旬の下落分を縮小する展開となりました。米国株式市場は、目立った材料に乏しく小幅安で始まった後、月初以降反落に転じた原油価格が嫌気され上旬は下落基調での推移が続き、中旬に入ると、中央銀行の金融政策の行き詰まり感が不安要素となる一方で、12日には原油価格の持ち直しに加え、1月小売売上高が前月比プラスとなったことが好感され反発に転じました。その後も堅調な原油価格が追い風となって資源関連株が相場を牽引したほか、上旬に大きく下落した金融株などが買い戻される動きとなりました。下旬に入ると、中国経済に対する懸念から一時は売られる局面もありましたが、好調な米国経済指標が投資家心理を支え概ね堅調に推移しました。結局、ダウ平均は16,516.50(前月比+0.30%)、ナスダック総合指数は4,557.95(前月比-1.21%)、S&P500指数は1,932.23(前月比-0.41%)で終了しました。

欧州株式市場は、米中の低調な製造業関連指標が嫌気され下落して始まった後、原油安や企業決算の不振に加え主要銀行の信用リスク懸念などの悪材料が重なり、月初から9日にかけて大幅下落となりました。それでも10日には信用懸念が和らいだ銀行株が急騰して市場全体も反発に転じ、中旬に入っても原油価格の落ち着きや欧州中央銀行(ECB)による景気刺激策への期待感の高まりを受けて上昇基調を維持しました。下旬には、英豪系鉱山会社BHPビリトンの減配報道を受けて資源関連株が連れ安となるなど一時は下落する局面もありましたが、好調な原油価格に加え底堅い企業決算や主要中銀による追加刺激策への期待感などから月末にかけては3連騰となりました。英FT指数は6,097.09(前月比+0.22%)、仏CAC指数は4,353.55(前月比-1.44%)、独DAX指数は9,495.40(前月比-3.09%)で終了しました。

アジア株式市場では、オーストラリア市場は原油安を嫌気して上旬は軟調に推移しましたが、その後反発しました。香港市場は中国景気懸念などから月末まで下落基調が続きましたが、月後半は持ち直す動きとなりました。豪ASX200指数は4,880.93(前月比-2.49%)、香港ハンセン指数は19,111.93(前月比-2.90%)で終わりました。

外国為替市場は、1月末に日銀が予想外にマイナス金利の導入を決めたことを受けて軟化した日本円は、原油価格の下落や日米欧の軟調な経済指標、欧州の金融機関の財務問題や英国の欧州連合(EU)離脱の可能性などを背景に、世界的にリスク回避姿勢が高まったことから主要通貨全般に対して上昇しました。円は対米ドルで月間6.00%上昇の113.62円となりました。

MSCIコクサイ指数パフォーマンスは前月比-4.10%となりました。

<信託財産構成比>

項目	国名	比率	
外国株式	[全体]	94.3%	
	<北米>	64.6%	
		アメリカ	61.2%
		カナダ	3.4%
	<アジア・太平洋>	4.4%	
		オーストラリア	2.6%
		香港	1.3%
		シンガポール	0.5%
		ニュージーランド	0.1%
	<ヨーロッパ>	24.9%	
		イギリス	7.5%
		フランス	3.8%
		ドイツ	3.4%
		スイス	3.6%
		オランダ	1.2%
	イタリア	0.8%	
	スペイン	1.2%	
	スウェーデン	1.1%	
	フィンランド	0.4%	
	ベルギー	0.5%	
	アイルランド	0.2%	
	デンマーク	0.8%	
	ノルウェー	0.2%	
	ポルトガル	0.1%	
	オーストリア	0.1%	
<アフリカ・中東>	0.3%		
	イスラエル	0.3%	
その他(現金及び株価指数先物)		5.7%	

※マザーファンド・ベース
※比率は対純資産で計算しています。

※当資料に記載されている事項は、現時点または過去の実績を示したものであり、将来の投資成果を保証するものではありません。
※その他、当資料に関する「ご留意いただきたい事項」を9/9ページに掲載していますので必ずご参照ください。

特別勘定名称

新興成長国株式型(GW)

運用方針

新興成長国の企業の株式を主な投資対象とする投資信託に主に投資することにより、中長期的な成長を目指します。

ユニット・プライスの推移



※ユニット・プライスとは特別勘定資産の1ユニット(1口)に対する価格のことで、特別勘定の運用を開始した時点をも「100」として指数化したものです。

ユニット・プライスの騰落率

	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	設定来
新興成長国株式型(GW)	▲4.90%	▲19.35%	▲20.58%	▲31.23%	13.00%

特別勘定資産内訳

	構成比(%)
現預金・その他	4.5%
投資信託	95.5%
合計	100.0%

【参考】新興成長国株式型(GW)の主な投資対象である投資信託の運用状況を掲載

GIM・BRICS5・ファンド(適格機関投資家転売制限付)

(運用会社:JPモルガン・アセット・マネジメント株式会社)

<基準価額の騰落率>

	1ヶ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	設定来
GIM・BRICS5・ファンド	▲9.9%	▲19.9%	▲21.0%	▲31.8%	48.0%

※騰落率については、基準価額に税引前分配金を再投資して計算しております。
 ※騰落率は実際の投資家利回りとは異なります。
 ※ファンド設定日は2006年5月26日です。

<株式組入上位10銘柄>

(銘柄数 65銘柄)

順位	銘柄	国	業種	比率
1	ルクオイル(ADR)	ロシア	エネルギー	3.85%
2	スベルバンク・オブ・ロシア	ロシア	銀行	3.77%
3	HDFC	インド	銀行	3.24%
4	騰訊	中国	ソフトウェア・サービス	3.20%
5	マグニト	ロシア	食品・生活必需品小売り	3.08%
6	MMCノリリスクニッケル(ADR)	ロシア	素材	3.07%
7	ビッドヴェストグループ	南アフリカ	資本財	3.03%
8	ナスパーズ	南アフリカ	メディア	2.80%
9	ファーストランド	南アフリカ	各種金融	2.48%
10	イタウ・ユニバンコ・ホールディング	ブラジル	銀行	2.38%

※マザーファンド・ベース
 ※組入上位10銘柄については、開示基準日以外の情報と異なります。
 ※比率は対純資産で計算しています。
 ※国、業種については、MSCI分類に基づき分類していますが、委託会社の判断に基づき分類したものが一部含まれます。

<運用コメント>

市場概況

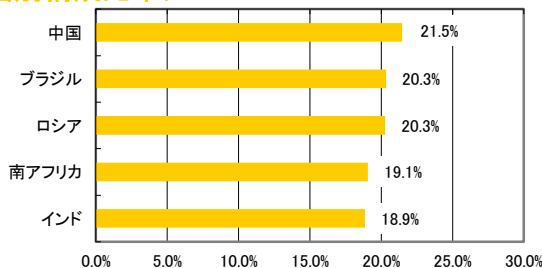
当月、BRICS5カ国を含む新興国株式市場は小幅下落しました。上旬は原油価格の一段安や欧州の大手金融機関の決算が赤字となったことを背景とした信用不安などを嫌気し、投資家のリスク回避姿勢が高まったことから下落しました。中旬に入るとイエレンFRB(米連邦準備制度理事会)議長が行った議会証言が、世界経済の減速懸念の高まりを印象付ける結果となり、株式市場は一段安となりました。その後月末にかけては、欧州の金融機関の信用不安が後退したことや、ロシアがサウジアラビアなどの産油国と条件付きで原油増産の凍結に合意したことを受けて、原油価格が反発したことなどが支援材料となり、株価は上昇に転じました。このような市場環境の下、BRICS5カ国の国別では、ブラジルとロシアが上昇した一方、インド、中国、南アフリカは下落しました。

運用状況

- ・当ファンドの基準価額は11,190円、前月末比-5.0%となりました。
- ・当月は、投資通貨が対円で下落したことが基準価額を押し下げました。
- ・組入保有証券に対する国別の投資比率は、中国、ブラジル、ロシアは20%を上回る比率となりました。一方で南アフリカ、インドは20%を下回る比率となりました。

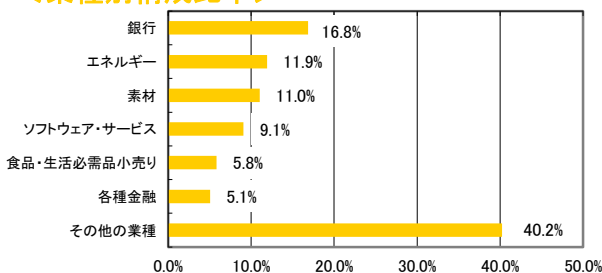
※当資料に記載されている事項は、現時点または過去の実績を示したものであり、将来の投資成果を保証するものではありません。
 ※その他、当資料に関する「ご留意いただきたい事項」を9/9ページに掲載していますので必ずご参照ください。

<国別構成比率>



※マザーファンド・ベース
 ※比率は組入保有証券を100%として計算しております。
 ※国別については、MSCI分類に基づき分類していますが、委託会社の判断に基づき分類したものが一部含まれます。
 ※中国の構成比率にはMSCI分類における香港を含みます。

<業種別構成比率>



※マザーファンド・ベース
 ※比率は組入保有証券を100%として計算しております。
 ※業種については、MSCI24分類に基づき分類していますが、委託会社の判断に基づき分類したものが一部含まれます。

特別勘定名称

海外債券型(GW)

運用方針

日本を除く世界各国の公社債を主な投資対象とする投資信託に主に投資することにより、中長期的に安定した投資成果をあげることを目指します。

ユニット・プライスの推移



※ユニット・プライスとは特別勘定資産の1ユニット(1口)に対する価格のことで、特別勘定の運用を開始した時点(09/01)を「100」として指数化したものです。

ユニット・プライスの騰落率

	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	設定来
海外債券型(GW)	▲3.15%	▲5.06%	▲5.26%	▲7.25%	32.26%

特別勘定資産内訳

	構成比(%)
現預金・その他	4.2%
投資信託	95.8%
合計	100.0%

【参考】 海外債券型(GW)の主な投資対象である投資信託の運用状況を掲載

ピムコ・海外債券ファンド(適格機関投資家専用)

(運用会社:ピムコジャパン リミテッド)

<基準価額の騰落率>

	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	設定来
ピムコ 海外債券ファンド	▲ 3.21%	▲ 5.03%	▲ 4.96%	▲ 6.47%	95.00%
ベンチマーク	▲ 2.83%	▲ 4.29%	▲ 4.31%	▲ 4.71%	74.89%
差異	▲ 0.38%	▲ 0.74%	▲ 0.65%	▲ 1.76%	20.11%

※ベンチマークは、シティ世界国債インデックス(除く日本、為替ヘッジなし)90%、1ヶ月日本円Libor10%を合成したものです。

<ファンドの一般特性>

平均クーポン	2.42%
平均直接利回り	2.38%
平均最終利回り	1.93%
平均デュレーション	5.93年
平均償還期間	8.44年
平均格付け*	AA
債券組入比率	99.29%

※平均格付けとは、基準日時点で投資信託財産が保有している有価証券に係る信用格付を加重平均したものであり、当該投資信託受益証券に係る信用格付ではありません。

<国別構成比>

国名	組入比率
アメリカ	34.57%
ユーロ圏	41.39%
イギリス	13.49%
カナダ	2.43%
メキシコ	3.64%
オーストラリア	1.21%
日本	0.54%
その他	2.73%
合計	100.00%

<格付構成比>

格付	組入比率
AAA	54.11%
AA	13.33%
A	10.60%
BBB	12.75%
BB以下	0.01%
A1/P1	9.19%
A2/P2	0.00%
合計	100.00%

<種別別配分>

セクター名	組入比率
国債、エージェンシー債	77.79%
モーゲージ債、アセットバック債	0.59%
社債	20.91%
キャッシュ等*	0.71%
合計	100.00%

※「キャッシュ等」にはCP等も含まれます。

<運用コメント>

<市場コメント>

米国債券相場は、株式および原油価格の下落を受けたりスク回避の流れが継続したことや、イエレンFRB(米連邦準備制度理事会)議長が議会証言において利上げが緩やかなペースになることを示唆したこと、上昇しました。(2年債利回りは前月比で横ばい、10年債利回りは0.19%低下しました。)

欧州債券相場は、大手金融機関の経営に対する懸念が高まったことに加え、ドラギECB(欧州中央銀行)総裁が追加緩和に対して積極的な姿勢を示唆したことがプラス材料となり、上昇しました。(2年債利回りは0.08%、10年債利回りは0.22%低下しました。)英国債券相場は、グローバルに債券市場が堅調に推移したことに加え、BOE(イングランド銀行)が経済見通し及びインフレ予想を下方修正したこともプラス材料となり、上昇しました。(2年債利回りは前月比0.04%上昇、10年債利回りは0.22%低下しました。)

日本債券相場は、一月に発表されたマイナス金利の導入を受けて、さらなる金利低下が意識されたことに加え、国債入札で良好な需給環境が確認されたことがプラス材料となり、上昇しました。(2年債利回りは前月比0.16%、10年債利回りは0.16%低下しました。)

<パフォーマンス>

先月のパフォーマンスはマイナス3.21%となり、ベンチマークを0.38%下回りました。米国の長期セクターへの投資を少なめとしていたことや一部金融債の保有がマイナスに寄与しました。

※当資料に記載されている事項は、現時点または過去の実績を示したものであり、将来の投資成果を保証するものではありません。
※その他、当資料に関する「ご留意いただきたい事項」を9/9ページに掲載していますので必ずご参照ください。

特別勘定名称

日本債券型(GW)

運用方針

国内の物価連動債を主な投資対象とする投資信託に主に投資することにより、中長期的に安定した投資成果をあげることを目指します。

ユニット・プライスの推移



ユニット・プライスの騰落率

	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	設定来
日本債券型(GW)	▲2.08%	▲2.85%	▲3.07%	▲4.26%	5.81%

特別勘定資産内訳

	構成比(%)
現預金・その他	4.1%
投資信託	95.9%
合計	100.0%

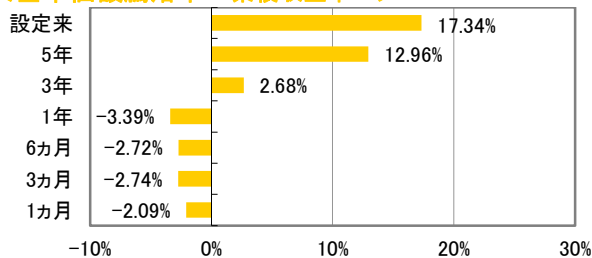
※ユニット・プライスとは特別勘定資産の1ユニット(1口)に対する価格のことで、特別勘定の運用を開始した時点(100)として指数化したものです。

【参考】日本債券型(GW)の主な投資対象である投資信託の運用状況を掲載

MHAM物価連動国債ファンドVA(適格機関投資家専用)

(運用会社:みずほ投信投資顧問株式会社)

<基準価額騰落率-累積収益率->



※累積収益は、ファンドの決算時に収益分配があった場合にその分配金(税引前)を再投資したものと算出。
※累積収益率は実際の投資家利回りとは異なります。

<組入上位5銘柄の組入比率>

順位	銘柄名	利率	償還日	比率
1	第17回利付国債(物価連動・10年)	0.100%	2023/09/10	70.1%
2	第18回利付国債(物価連動・10年)	0.100%	2024/03/10	16.2%
3	第19回利付国債(物価連動・10年)	0.100%	2024/09/10	8.7%
4	第20回利付国債(物価連動・10年)	0.100%	2025/03/10	2.4%
5				

<資産構成比率>

国内債現物組入銘柄数	4銘柄
公社債の平均残存期間	7.74年

国内債現物	97.4%
国内債先物	0.0%
その他資産	2.6%

※その他資産は、100%から国内債現物・国内債先物の組入比率の合計を差し引いたものです。
※組入比率は、純資産総額に対する比率を表示しています。月末の設定・解約の影響により、一時的に100%を超える場合があります。

<公社債の残存期間別組入比率>

残存年数	比率
1年未満	0.0%
1年以上3年未満	0.0%
3年以上7年未満	0.0%
7年以上10年未満	97.4%
10年以上	0.0%

※組入上位5銘柄の組入比率、公社債の残存期間別組入比率は、純資産総額に対する比率を表示しています。

<運用コメント>

■先月の投資環境

2月の10年物価連動国債の価格は下落しました。価格変動の主な要因は以下の通りです。

『既に起こった物価の変動要因』: 2月に適用される全国消費者物価指数(生鮮食品を除く総合指数)は前月末対比下落しました(マイナス要因)。

『将来予想される物価の変動(期待インフレ率※)要因』: 第20回債の期待インフレ率は為替の急激な円高進展などをを受けて大幅に低下しました(マイナス要因)。

『金利の変動要因』: 第20回債とほぼ同残存年数の国債利回りは、日銀の金融緩和政策の影響を受けて低下しました(プラス要因)。

※物価連動国債の価格に織り込まれた将来予想される物価変動率です。各物価連動国債とほぼ同残存年数の国債との利回り差となります。

■先月の運用概況

主に将来予想される物価の変動要因がマイナスに影響し、基準価額は前月末対比下落しました。なお、当ファンドのマザーファンドでは第19回債を一部売却しました。

■今後の運用方針

当面、物価連動国債市場は上値の重い状況が続くと見込みます。為替は円高水準で推移していることや、原油市場における価格低迷が続いていることなどから、目先の物価上昇期待は高まりにくい状況が継続すると想定します。しかしながら、日銀は2%の物価上昇を目指し、必要であれば今後も追加の金融緩和措置を導入することを表明しており、原油価格などの国際商品市況が落ち着き、日銀の金融緩和効果が浸透することによって、徐々に物価上昇への期待が高まっていくものと見込みます。

このような見通しに基づき、基本的には現在のポートフォリオを維持する方針です。

※当資料に記載されている事項は、現時点または過去の実績を示したものであり、将来の投資成果を保証するものではありません。

※その他、当資料に関する「ご留意いただきたい事項」を9/9ページに掲載していますので必ずご参照ください。

特別勘定名称

海外リート型(GW)

運用方針

日本を除く世界各国の上場不動産投信(REIT=Real Estate Investment Trust)を主な投資対象とする投資信託に主に投資することにより、S&P先進国REIT指数(除く日本、配当込み、円換算ベース)に連動した投資成果をあげることを目指します。

ユニット・プライスの推移



※ユニット・プライスとは特別勘定資産の1ユニット(1口)に対する価格のことで、特別勘定の運用を開始した時点(2009年6月)を「100」として指数化したものです。

ユニット・プライスの騰落率

	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	設定来
海外リート型(GW)	▲4.40%	▲10.19%	▲4.95%	▲10.69%	9.13%

特別勘定資産内訳

	構成比(%)
現金・その他	4.3%
投資信託	95.7%
合計	100.0%

【参考】海外リート型(GW)の主な投資対象である投資信託の運用状況を掲載

ノムラ海外REIT インデックス・ファンドVA(適格機関投資家専用)

(運用会社:野村アセットマネジメント株式会社)

<基準価額の騰落率>

	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	設定来
ノムラ海外REIT インデックス・ファンドVA	▲6.3%	▲10.5%	▲4.8%	▲10.3%	33.0%
ベンチマーク	▲4.4%	▲10.2%	▲4.3%	▲9.6%	43.1%

「S&P先進国REIT指数(除く日本)」はスタンダード&プアーズファイナンシャル サービスズ エル エル シーの所有する登録商標であり、野村アセットマネジメントに対して利用許諾が与えられています。スタンダード&プアーズは本商品を推奨・支持・販売・促進等するものではなく、また本商品に対する投資適格性等に関しかなる意思表示等を行なうものではありません。

※収益率の各計算期間は、作成基準日から過去に遡った期間としております。
※ベンチマークである、S&P先進国REIT指数(除く日本、配当込み、円換算ベース)はS&P先進国REIT指数(除く日本、配当込み、ドルベース)を委託会社において円換算したものです。

<資産別配分比率>

資産種別	純資産比
REIT(リート)	99.1%
先物	0.9%
その他の資産	0.9%
合計(※)	-

<実質通貨配分>

通貨	純資産比
日本・円	0.0%
外貨計	100.0%
アメリカ・ドル	71.8%
ユーロ	6.8%
イギリス・ポンド	5.9%
その他の外貨	15.5%

・実質通貨配分は為替予約等を含めた実質的な比率をいいます。

<国・地域別配分>

国・地域	純資産比
アメリカ	72.5%
オーストラリア	8.3%
イギリス	5.7%
シンガポール	3.2%
オランダ	3.1%
その他の国・地域	8.1%
合計(※)	-

※先物の建て玉のある場合は、合計欄を表示していません。

<REIT 組入上位10銘柄>

	銘柄	国・地域	純資産比
1	SIMON PROPERTY GROUP INC	アメリカ	6.1%
2	PUBLIC STORAGE	アメリカ	3.8%
3	EQUITY RESIDENTIAL	アメリカ	2.8%
4	UNIBAIL RODAMCO-NA	オランダ	2.5%
5	AVALONBAY COMMUNITIES INC	アメリカ	2.4%
6	WELLTOWER INC	アメリカ	2.3%
7	PROLOGIS INC	アメリカ	2.1%
8	VENTAS INC	アメリカ	1.9%
9	BOSTON PROPERTIES	アメリカ	1.8%
10	SCENTRE GROUP	オーストラリア	1.7%

※純資産比は、マザーファンドの純資産比と当ファンドが保有するマザーファンド比率から算出しております。
※国・地域は原則発行国・地域で区分しております。

<市場コメント>

●欧米の長期金利低下や、1月の米中古住宅販売件数が増加したこと、米国株式市場の上昇などを背景に、外国リート市場は米国を中心に上昇しました。米国の利上げペースが緩やかなものにとどまるとの観測や、ECB(欧州中央銀行)による追加金融緩和観測などを背景に、主要通貨は対円で下落(円高)しました。

(野村アセットマネジメント作成)

<純資産総額>

純資産総額	12.1 億円
-------	---------

<組入銘柄数>

組入銘柄数	313 銘柄
-------	--------

※当資料に記載されている事項は、現時点または過去の実績を示したものであり、将来の投資成果を保証するものではありません。
※その他、当資料に関する「ご留意いただきたい事項」を9/9ページに掲載していますので必ずご参照ください。

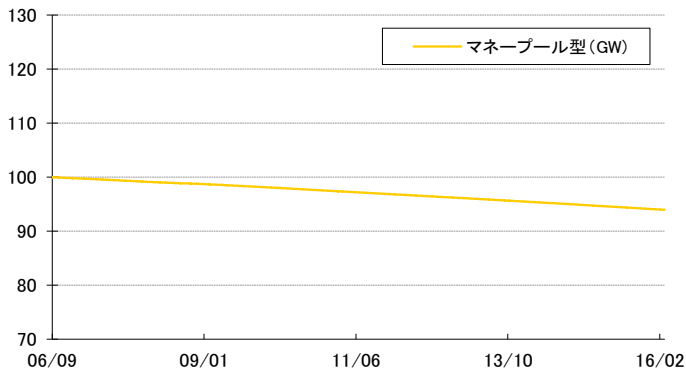
特別勘定名称

マネープール型(GW)

運用方針

他の特別勘定で運用している資金の一時退避を目的とし、国内の公社債および短期金融商品等を主な投資対象とする投資信託に主に投資することにより、安定した投資成果をあげることを目指します。

ユニット・プライスの推移



ユニット・プライスの騰落率

	1カ月	3カ月	6カ月	1年	設定来
マネープール型(GW)	▲0.06%	▲0.19%	▲0.38%	▲0.76%	▲6.04%

特別勘定資産内訳

	構成比(%)
現金・その他	10.5%
投資信託	89.5%
合計	100.0%

※ユニット・プライスとは特別勘定資産の1ユニット(1口)に対する価格のことで、特別勘定の運用を開始した時点を「100」として指数化したものです。

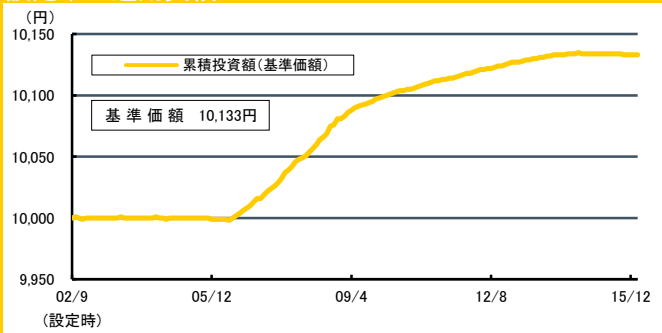
【参考】マネープール型(GW)の主な投資対象である投資信託の運用状況を掲載

フィデリティ・マネー・プールVA(適格機関投資家専用)

(運用会社:フィデリティ投信株式会社)

◆本邦通貨表示の公社債等を主要な投資対象とし、安定した収益の確保を図ることを目的として運用を行ないます。

設定来の運用実績 (2016年2月29日現在)



※累積投資額は、ファンド設定時に10,000円でスタートしてからの収益分配金を再投資した実績評価額です。
 ただし、購入時手数料および収益分配金にかかる税金は考慮していません。
 ※当ファンドは、ベンチマークを設定していません。
 ※基準価額は運用管理費用控除後のものです。
 ※当該実績は過去のものであり、将来の運用成果等を保証するものではありません。

純資産総額	100.4 億円	(2016年2月29日現在)
-------	----------	----------------

商品概要	
形態	追加型投信/国内/債券
投資対象	本邦通貨表示の公社債等
設定日	2002年9月20日
信託期間	原則無期限
決算日	原則、毎年11月30日(休業日のときは翌営業日)

累積リターン (2016年2月29日現在)

	直近1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1年	設定来
ファンド	0.00%	0.00%	▲0.01%	▲0.01%	1.33%

※累積リターンは、収益分配金を再投資することにより算出された収益率です。

過去5期分の収益分配金(1万口当たり/税込)

第10期(2011.11.30)	0円
第11期(2012.11.30)	0円
第12期(2013.12.02)	0円
第13期(2014.12.01)	0円
第14期(2015.11.30)	0円

ポートフォリオの状況(マザーファンド・ベース) (2016年1月29日現在)

<資産別組入状況>

債券	-
CP	-
CD	-
現金・その他	100.0%

<組入資産格付内訳>

長期債券格付	AAA/Aaa	-
	AA/Aa	-
	A	-
短期債券格付	A-1/P-1	-
	A-2/P-2	-
現金・その他		100.0%

平均残存日数

-

平均残存年数

-

(対純資産総額比率)

格付は、S&P社もしくはムーディーズ社による格付を採用し、S&P社の格付を優先して採用しています。(「プラス/マイナス」の符号は省略しています。)なお、両社による格付のない場合は、「格付なし」に分類しています。

組入上位10銘柄(マザーファンド・ベース) (2016年1月29日現在)

	銘柄	種類	格付	比率
1	-	-	-	-
2	-	-	-	-
3	-	-	-	-
4	-	-	-	-
5	-	-	-	-
6	-	-	-	-
7	-	-	-	-
8	-	-	-	-
9	-	-	-	-
10	-	-	-	-

(組入銘柄数: 0)

上位10銘柄合計 0.0%

(対純資産総額比率)

* 各々のグラフ、表にある比率は、それぞれの項目を四捨五入して表示しています。

※当資料に記載されている事項は、現時点または過去の実績を示したものであり、将来の投資成果を保証するものではありません。

※その他、当資料に関する「ご留意いただきたい事項」を9/9ページに掲載していますので必ずご参照ください。

ご注意いただきたい事項

▲ 投資リスクについて

この保険の据置（運用）期間中の運用は特別勘定で行なわれます。特別勘定資産の運用実績に基づいて年金額、死亡給付金額および解約払戻金額等が変動（増減）します。特別勘定資産の運用は、株式および公社債等の価格変動と為替変動等に伴う投資リスクがあり、運用実績によってはお受け取りになる年金額や解約払戻金額の合計額が一時払保険料を下回ることがあります。これらのリスクはすべてご契約者に帰属します。

▲ 元本欠損が生じる場合があります

解約の時期、被保険者の契約年齢等の諸条件により、ご契約者等が受け取る金額の合計額が、お払込保険料の合計額を下回る場合もあります。保険会社の業務または財産の状況の変化により、年金額、死亡給付金額、解約払戻金額等が削減されることがあります。

▲ 諸費用について

契約初期費	一時払保険料に対して 5.0% を特別勘定繰入前に控除します。
保険関係費	特別勘定の資産総額に対して (年率0.75%+運用実績に応じた費用^(※))/365日 を毎日控除します。 ※ 運用実績に応じた費用:運用実績を毎日判定し、運用実績が 年率1.5%を超過 した場合のみ、 超過分1%あたり0.1%(上限1.25%) を控除します。
移転費	積立金の移転が年間13回以上のとき、 移転一回につき1,000円 を、保険会社が移転を受け付けた日末に積立金から控除します。
年金管理費	年金支払開始日以後、支払年金額の 1% を年金支払日に控除します。
資産運用関係費	日本株インデックス型(GW) 年率0.432%程度
	日本株アクティブ型(GW) 年率0.9504%程度
	海外株式型(GW) 年率0.4104%程度
	新興成長国株式型(GW) 年率1.188%程度
	海外債券型(GW) 年率0.9396%程度
	日本債券型(GW) 年率0.2592%~0.378%程度
	海外リート型(GW) 年率0.432%程度
マネープール型(GW) 年率0.00918%~0.54%程度	

資産運用関係費は将来変更されることがあります。その他お客さまにご負担いただく手数料には、信託事務の諸費用等、有価証券の売買委託手数料および消費税等の税金がかかりますが、費用の発生前に金額や割合を確定することが困難なため表示することができません。また、これらの費用は各特別勘定がその保有資産から負担するため、基準価額に反映することとなります。したがって、お客さまはこれらの費用を間接的に負担することとなります。

その他ご注意いただきたい事項

- 当資料は、特別勘定の主な投資対象である投資信託の勧誘を目的としたものではありません。
- 新変額個人年金保険「ダイレクト年金 e-VA」は、生命保険商品であり投資信託ではありません。また、ご契約者様が直接投資信託を保有されている訳ではありません。
- 新変額個人年金には複数の特別勘定グループが設定されており、「ダイレクト年金 e-VA」には「特別勘定グループ(GW)」が設定されています。保険料繰り入れおよび積立金の移転は「特別勘定グループ(GW)」に属する特別勘定に限定されます。「特別勘定グループ(GW)」以外の特別勘定グループに属する特別勘定への保険料の繰り入れおよび積立金の移転はできません。
- 特別勘定および特別勘定の主な運用対象となる投資信託の内容が変更されることがあります。
- 特別勘定資産の運用実績は、特別勘定が主な投資対象とする投資信託の運用実績とは異なり、一致するものではありません。これは、特別勘定は投資信託のほかに、保険契約の異動等に備えて一定の現預金等を保有していることや、積立金の計算にあたり投資信託の値動きには反映されていない保険にかかる費用等を特別勘定資産から控除していることなどによるものです。
- ユニット・プライスとは、特別勘定の運用実績を把握するための便宜上の参考値で、各特別勘定の運用開始時の値を「100」として指数化したものです。

新変額個人年金保険(無配当)特別勘定グループ(GW)「ダイレクト年金 e-VA」は現在販売していません。